

**論文題目：**医療秘書教育における e ラーニングおよびオンライン講義の利用に関する研究

## 論文概要

医師や医療スタッフの過重労働の問題が大きくなってきており、業務の効率化だけではなく、タスク・シェアリング、タスク・シフティングなどの検討がなされてきた。また、働き方改革の議論が進む中で、医師の働き方に注目が集まっている。医師の補佐としての医療秘書に関する教育は、海外に始まり、日本においても長年にわたって行われてきた。

本研究は、医療秘書の教育について取り上げ、高等教育および社会人教育での教育手法に着目する。医療秘書教育の効率化のための ICT を活用した e ラーニングや遠隔教育・オンライン講義のシステムの導入と利用効果の測定について検討する。効果的な教材やカリキュラムの提供ができるようにすることが目的である。研究の対象は、医療秘書になるべく学んでいる医療福祉系大学の学生および医療機関に勤務する社会人（特に医療秘書、医師事務作業補助業務に就いている者）である。

第 1 章 序論、および第 2 章 先行研究レビューにおいて、日本における医療秘書教育の流れや問題点を整理した。

第 3 章 大学学部生に対する医療秘書教育への e ラーニングの導入については、まず、川崎医療短期大学における医療秘書実務教育のための e ラーニング教材作成のパイロットスタディについて述べ、効果と問題点を明らかにした。次に、医学用語教育用の e ラーニング教材の作成と授業での使用について、川崎医療福祉大学での実践例を中心に明らかにした。

第 4 章 社会人に対する医療秘書教育への e ラーニング導入については、川崎医療福祉大学における BP プログラムでの社会人教育の実践例より、効果と問題点を明らかにした。

第 5 章 2020 年度における遠隔教育の導入と初年次生を対象とした実践について述べ、問題点と効果を明らかにした。

第 6 章 総括では、今後の医療秘書教育におけるオンライン講義および e ラーニングの活用の展望について述べた。教材の内容は、職場でのゴールを明確化し、医療機関で必要とされる知識や技術を体系的に学ぶことができる構造を持ち、医療現場のリアリティがあり、医療安全に配慮したコミュニケーション、知識とスキルの両面を学習することのできる教材にすることが必要である。これらを搭載する e ラーニングシステムは、①複数のデバイスで使用できるシステム、②動画、音声、テストなどを組み合わせて使うことができる、③ディスカッション（同期・非同期）ができ、学習者がお互いにフィードバックを与えることができる、④変更があったときに修正が容易、⑤習得度を確認するテストをデータベースとして管理可能、⑥複数言語への対応ができることが望ましい。また、教育手法としては、学習者が独学できるシステムを構築しておき、脱落者を防ぐために、適宜、指導者・インストラクターが介入することが適切である。ブレンディッド・ラーニングの形式や e ラーニングを用いたオンライン授業が望まれる形である。

本研究に残された課題は、先述のような教材の作成やコース作成を行い、メンテナンスし、教育することのできる人材の育成である。学問体系や医療現場での知見を生かし、多職種と協働することのできるスタッフの確保が望まれる。